

展勝地風土記

Vol.30

令和2年1月24日
展勝地開園100周年記念事業実行委員会
問い合わせ／北上市都市整備部都市計画課 ☎72-8279

展勝地開園100周年記念事業実行委員会、100周年に向けた取り組みとして、より多くの市民に展勝地を知っていただくため、展勝地に関するさまざまな情報を紹介しています。歴史のこと、地理のこと、自然環境のこと、そして、展勝地に深く関わった人々や展勝地を題材にした美術・文芸作品などについて紹介していきます。今回は令和2年4月24日に発行します。

『立花毘沙門堂とお宝』

展勝地風土記編集委員会

展勝地開園100周年記念事業実行委員会では、展勝地をもっと深く知り展勝地のすばらしさを再認識していただくため、関連する事柄や歴史、文化などを訪ね歩く「展勝地ゆかりの地訪問事業」を行っています。

今回は、国見山仏教文化と同年代の北上川東岸にある仏像を訪ね歩き、この地に栄えた仏教文化をより詳しく理解しようと企画しました。北は花巻市東和町の成島毘沙門堂から丹内山神社。市内は立花毘沙門堂と前々号で紹介した如意輪寺。そして江刺藤里の毘沙門堂です。

国見山仏教文化が栄えた一大伽藍跡を擁する展勝地丘陵地を挟んだ北端、県道から立花小学校に向かう市

道の左側に立花毘沙門堂があります。大きなイチヨウの木は、秋になると黄色に染まり県道からもひと目で分かります。「万福寺」という寺名はありますが仏事は行われておらず、鳥居をくぐった木造の毘沙門堂

のそばにある石段を数段上がったところに耐火コンクリート製の収蔵庫があります。普段はカギがかけられています。管理をされている宮さんに連絡すると拝観できます。中には国指定重要文化財の毘沙門天像、



立花毘沙門天像

二天像（持国天像・增長天像）ほか数体の仏像が祭られています。

成島毘沙門天像は平安中期のもので、高さは仏の身長が一丈六尺あったというところから「丈六」といわれる472cmの仏像です。毘沙門天像としては国内一の大きさで、4方角を守るとされる四天王のうち「北方の守護神」としての威容があり、見る者を圧倒します。この頃と同じ年代に造られたのが立花毘沙門天像で、高さは1mと小さくなりますが、東北特有の荒々しい作風で鋭彫という技法を用いて造られたものです。仏像を造る仏師たちの手により神木といわれる白木に精魂込めてノミを入れ造られるわけですが、当



二天像(増長天像)



二天像(持国天像)

時は「仏像はあえてノミの跡を残して完成間際の状態にしておく、自ら仏性が宿り「仏」となっていくものであり、人の手によって完成されるものではない」という思想のもとに、この技法が用いられたと言われ

ています。
そして、同所に祭られる二天像はうって変わり、中央(京都)の影響を大きく受けた造りで、顔や衣装の質感などはくつきりと詳細に表され、金箔を施された跡も確認できる

非常に鮮やかで綺麗なものとなっています。いずれも高さは160cmほどで堂々たる威厳があり、仏像というよりは千年前の芸術作品を見ているようです。同行して解説いただいた市立博物館の杉本良館長によると「現在残されているこういった仏像は、当時の十分の一ほどしか残されていないだろう」とのこと。寺院等が廃れて無くなったものもあります。数年前に中東で起こった宗教観の違いによる古代遺跡の仏像破壊に似たような現象が、ここ日本でも行われ、貴重な仏像が壊されたり捨てられたりした残念な歴史があったのです。

それが、明治維新で新政府による神道の国教化、いわゆる国家神道普及のために神仏判然令という法律が出されました。「神社と寺院は分けなさい」という神仏分離政策が執られ、神社か寺院かの選択を迫られたことから、神社を選択した寺院は祭られていた仏像を移動したり、廃棄されたりしたものもあり、貴重な文化財としての価値を失うところもありました。立花毘沙門堂に安置されている仏像も、真偽のほどは分かりませんが、江戸時代の文献には村人により他所から運び移されたという言い伝えもあるとのこと。こういった幾多の波を乗り越え、現在までに残されている仏像は非常に貴重で価値があるものと思うのです。このような仏像が私たちの住む北上市にあるということ皆さんに知っていただき、ぜひとも一度は目にしてほしいのです。仏教を信仰していないという人もおられるでしょう。けれども、はるか遠い平安の人たちの思いがかたどられた貴重な仏像は、次代につなげていかなければならないのではないかと強く思うのです。この仏像は何という名前です。どういった力を持って、何のご利益があるのかとは後にして…。